

うっしっしいー情報2024

9月市



豊岡農業改良普及センター

9月11日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が99万6千円、雌が81万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	5	0.956	971,520	8	0.882	811,113	13	872,808
丹波篠山	6	0.913	924,367	3	0.908	836,733	9	895,156
丹波	20	0.980	1,011,560	11	0.861	774,800	31	927,548
朝来	10	0.951	1,014,640	7	0.888	871,357	17	955,641
播磨	14	0.895	899,329	9	0.854	787,722	23	855,657
美方郡	54	0.974	1,003,220	60	0.885	832,682	114	913,463
豊岡	21	0.941	972,505	10	0.810	754,710	31	902,248
養父	32	0.987	1,086,181	10	0.844	898,590	42	1,041,517
摂津・神戸	20	0.919	936,430	15	0.830	742,133	35	853,160
県北C	8	0.965	981,063	-	-	-	8	981,063
市場全体	190	0.958	996,334	133	0.866	814,562	323	921,487

9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	36	0.954	1,068,894	14	0.859	860,829	50	1,010,636
2	藤彦土井	8	1.036	1,064,663	2	0.844	765,050	10	1,004,740
3	照忠土井	6	0.979	1,034,550	5	0.903	850,080	11	950,700
4	丸彩土井	8	0.956	967,038	9	0.857	906,644	17	935,065
5	丸春土井	20	0.943	1,017,775	12	0.815	792,733	32	933,384
	総計	190	0.958	996,334	133	0.866	814,562	323	921,487
6	丸池土井	12	0.935	960,758	7	0.859	825,157	19	910,800
7	忠味土井	24	0.940	976,342	14	0.848	772,593	38	901,276
8	山伸土井	44	0.979	963,825	39	0.902	827,849	83	899,933
9	照和土井	8	0.957	971,438	14	0.857	772,043	22	844,550

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A+	A++	A+	A++	A+
2	藤彦土井	A+	A	C	D	D	B
3	照忠土井	C	A++	A	A+	A++	B
4	丸彩土井	B	B	A++	C	A	C
5	丸春土井	C	B	C	B	B	A+
6	丸池土井	C	A++	D	B	A+	A++
7	忠味土井	B	A+	A	C	A+	A+
8	山伸土井	A	A++ → A+	D	A+	A+	A
9	照和土井	A++	A	B → C	B	B	B



バックナンバー
はここから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和6年8月現在)

分娩後の母牛の子宮・卵巣は回復していますか？

はじめに

繁殖管理の目標に「1年1産」という言葉があります。これは、1年＝365日の間で種付けから妊娠、出産を行うことです。母牛の妊娠期間を285日とすると、1年1産を達成するためには前回の分娩から80日以内に種付けを行い、次の妊娠をさせる必要があります。一方で、「発情が鈍い」、「種付けしたけど受胎しなかった」という声も聞かれ、初回種付けの遅れや分娩間隔が長期化している牛も見られます。原因の1つに、母牛が分娩後のダメージから十分に回復できていなかったことが考えられます。そこで今回は、良い発情につなげ、受胎を促すため農家の皆さんができる母牛の管理について考えてみましょう。

1 分娩後、母牛の体に何が起きている？

(1) 子宮修復

妊娠中、母牛の子宮は胎仔の成長に合わせて肥大化し、分娩後、徐々に妊娠前の大きさまで戻ります。また、胎仔を分娩した後の子宮は外部の環境にさらされ、外陰部周辺の菌が子宮内に侵入しやすくなっています。そのため、分娩直後は子宮内に侵入した菌が原因となる子宮炎や子宮内膜炎を発症する母牛が多くなります。その後、子宮の収縮などに伴う粘液の分泌によって子宮内の菌が悪露（おろ：粘液の汚れ）として体外へ排出され、分娩後40日頃までには子宮修復が完了します（図1）。

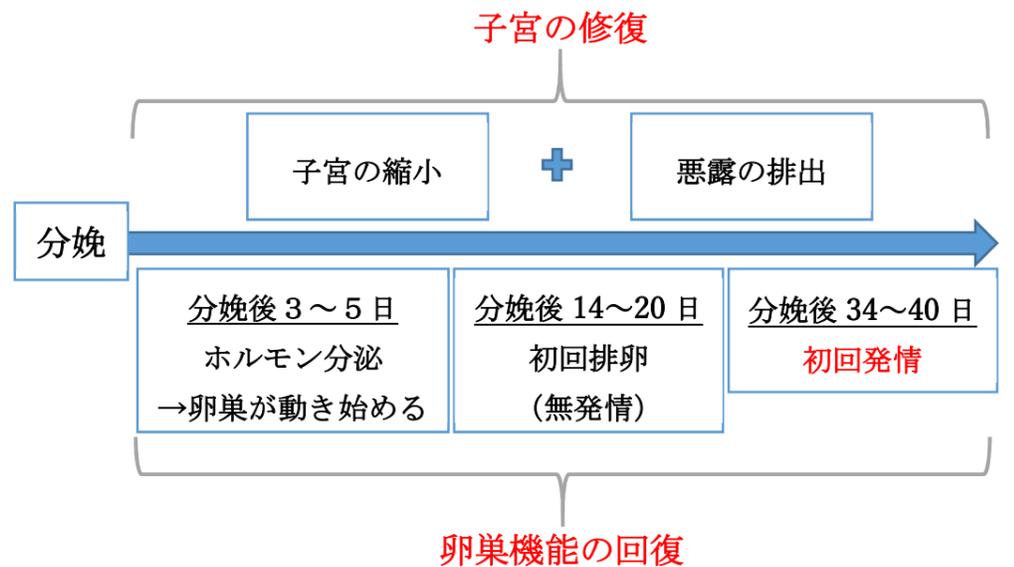


図1 子宮・卵巣機能回復までの流れ

(2) 卵巣機能回復

分娩直後は卵巣が止まった状態ですが、徐々に卵巣機能が回復し、分娩後3～5日でホルモンの分泌により卵巣が動き始め、分娩後14～20日で初回排卵、分娩後34～40日で初回発情が見られます（図1）。

2 スムーズに次の繁殖に向かうためには？

良い発情につなげ、種付けを行い、受胎させるためには、先述した子宮と卵巣機能の回復が非常に重要であり、これらは、①離乳のタイミング、②母牛の栄養状態などが影響します。

①離乳のタイミング

子宮修復は、子牛の哺乳刺激により促進され、卵巣機能の回復は、子牛の哺乳刺激により遅れる傾向にあります（表1、2）。特に、初産の自然哺乳では初回発情までの日数が長く、「初産は産後のダメージが大きくなかなか次の繁殖に向かえない」という話も耳にします。豊岡市内では早期離乳を行っている農場は少ないと思いますが、制限哺乳の実施や、離乳のタイミングを早めることなども卵巣機能を回復させスムーズに次の繁殖に向かうための手段の1つです。

表1 子宮修復までの日数

	初産（日）	1～10産の平均(日)
1週齢離乳	36.0	41.2
4週齢離乳	30.0	38.9
自然哺乳※	32.0	37.2

※6ヵ月齢まで自然哺乳

表2 初回発情日数

	初産（日）	1～10産の平均(日)
1週齢離乳	45.0	34.8
4週齢離乳	38.7	38.1
自然哺乳※	88.8	56.3

(中国農業試験場報告 居在家ら 1986)

②母牛の栄養状態

分娩前後は体の維持に加え、胎仔の成長や授乳、次の繁殖に向けた養分など、維持期よりも必要な養分量が多くなります。特に繁殖に回す養分は優先順位が低く、栄養不足になると卵巣機能の回復が遅れ、良い発情につながりません。そのため、皆さん取り組まれているかと思いますが、分娩前後の増飼いはとても重要です。特に初産（育成牛）は、自身の成長のための養分も必要とするので、産後のスムーズな回復のためにも経産牛より増給するなど、より丁寧な管理を心がけましょう。また、これから冬に向かい寒くなると、体温を維持するため通常よりエネルギーの消費量が増加します。特に、冬に分娩を迎える牛については、濃厚飼料を1kg増給するなど栄養不足にならないように注意しましょう。

3 子宮・卵巣の状態を確認することも大切です！

日頃、丁寧な管理を行っていても、子宮や卵巣の状態は牛の外観からは分かりづらく、判断も専門的な知識が必要です。そこで、繁殖検診時にフレッシュチェックを行うことも手段の1つです。フレッシュチェックとは分娩後の子宮や卵巣の回復状態などを確認することです。発情兆候が見られたら問題ないですが、分娩後40日を経過しても発情がない場合、卵巣などに何らかの問題があるかもしれません。フレッシュチェックにより回復の遅れやその原因が分かれば、早期に適切な治療を行うことができます。その結果、初回種付け日数を短縮させ、空胎期間の延長に伴い発生していたコストの低減につながります。

ポイント

- ・分娩後、子宮・卵巣機能が回復するまでに約40日かかります
- ・子宮・卵巣機能の回復には、離乳のタイミングや栄養状態が影響します
- ・場合によりフレッシュチェックを活用し、子宮・卵巣機能の回復状態の把握と治療を実施しましょう